

令和2年度第1回「北海道森林審議会」議事概要

1. 日時及び場所

令和2年7月30日(木)13:00～15:00

第二水産ビル 4階 4S会議室

2. 出席者

【委員】小泉会長 / 阿部委員 / 兼子委員 / 北川委員 / 中田委員 / 永野委員 / 西川委員 / 早川委員 / 原田委員 / 前田委員 / 松永委員 / 宮川委員 / 山口加津子委員 / 山口信夫委員 / 吉田委員 (委員15名出席)

【道側】佐藤水産林務部長 / 辻井水産林務部次長 / 岡嶋林務局長 / 濱田森林環境局長 / 斉藤技監 / 野村森林計画担当局長 / 各課長・担当課長ほか (道側18名出席)

3. 議事

(1) 今後の林務施策の展開方向について

北海道の森林・林業・木材産業の動向や新型コロナウイルス感染症拡大の影響、「北海道森林づくり基本計画」の進捗状況などを踏まえ、今後の林務施策の検討方向について審議

【委員の主な発言】

- ・ コンテナ苗の生産量が増えていないようなので、検証や対策が必要。
- ・ 生物多様性ゾーンについて、北海道における生物多様性の定義やSDGsとの関係性を示すべき。
- ・ クリーンラーチを増産することとしているが、将来的な人工林の樹種別面積について道として検討すべき。
- ・ コロナの影響で梱包材・パレット材出荷は4割減の状況であり、リーマンショックと異なり、先の回復が見通せない。土場は満杯で使った分だけ原木を受け入れている。行政は木材需要拡大の取組を早急に進めるべき。
- ・ 道産木材を建築材として使ってもらうためには、施主や設計士等に長所をわかりやすくPRすることが必要。
- ・ 住宅建築は低調。リモートワークの本格化により、中心部の賃貸住宅から郊外の一戸建て住宅に引っ越し動きもある。
- ・ せっかくカラマツの需要が増えたのだから、適地にはカラマツを植栽して資源の維持を図るべき。
- ・ コロナ対策の「需給動向に応じた持続的な森林整備」では、民有林の造林未済地解消に取り組むべき。
- ・ カラマツの更新では野ねずみ対策が重要。環境面での理解を得ながら薬剤散布などの対策徹底が必要。
- ・ 北海道では木育発祥の地としてマイスターが地に足のついた活動をしており、今後も民と官の協働が重要。

(2) 報告事項

①「北の森づくり専門学院」の開校について

北森カレッジの入学内訳、新型コロナへの対応、講義の状況、新校舎整備状況等の概要について説明

【委員の主な発言】

- ・ 北森カレッジでは木材利用を含めた大局的な林業人を育成すべき。また、次年度の入学確保に向けしっかりと取り組むべき。

②第44回全国育樹祭の開催延期について

第44回全国育樹祭基本計画の開催延期に係る経過及び今後の対応について説明

【委員の主な発言】

(特になし)

③北海道森林審議会林地保全部会からの報告について

前回審議会(令和元年12月)以降、北海道森林審議会林地保全部会の諮問案件は該当ない旨を報告
令和元年度における諮問基準に該当しない林地開発行為の許可処分状況を報告

【委員の主な発言】

(特になし)